

専門部会キックオフ（5/19）を終えて（報告）

1 旭川市の方向性についてイメージの共有

- ・ 「わくわく感」を引き出し、楽しみながら学びあい、社会教育を発展させ、つながりを創出。
- ・ このことが、人が優しく輝き、住み続けたい思い、住みたいと思われる旭川市であり続ける秘訣。

2 答申作成に向け以下について事務局に質問

質問1：計画作成時、経年で見ると必要がある内容はあるのか？

→ 現時点では無いと考えるが、今後の議論の中で必要性が生じれば確認していきたい。

質問2：マスタープランとの関連をどのように考えるのか？

→ 市の総合計画は、これから議論が始まるので、適宜、情報提供していきたい。

質問3：学校教育基本計画（他の計画）との関連を踏まえ、配慮事項はあるのか？

→ それぞれの計画も見直し時期にあるので、今後、配慮すべき事項があれば伝えていきたい。

質問4：社会教育に関わる各審議会等での計画や評価は、どのように位置づければよいのか？

→ 部内各審議会で議論された計画や評価と答申内容は、整合を図っていきたい。

質問5：諮問内容以外に事務局としての考えはあるのか？

→ 現時点においては、特に無い。

質問6：次期計画は、現在と同じ構成なのか？それとも新たなイメージで作成しようとしているのか？

→ 次期計画の構成については、本会議の御議論の中で整理したいと考えている。

3 計画策定に向けた社会教育委員としての関わり

（1） 「キャッチフレーズ」や「キャッチコピー」、「合い言葉」を議論

- ◆ 旭川市の社会教育行政を推進する。
- ◆ 地域づくりの根幹を支えるのは人材育成そのものであり、施策展開の第一義とされてきている。
- ◆ 具体的には、次のような考え方が込められていると認識している。

- ・ 個人の幸福の追求が、地域満足度の上昇への道筋。
- ・ 学校教育と社会教育は車の両輪であり、次代を担う子どもを豊かに育むため、学校教育と連携して「家庭教育・社会教育」を進め、子どもから大人まで途切れのない地域学習を構築。
- ・ 楽しむことが社会教育活動の継続の秘訣。
- ・ 人と人、人と活動、活動と活動を結び、出会う、縁をつなぐ地域人材を育成。
- ・ 知と人をつなげ、人と人、地域や組織をつなぎ、過去と今、そして未来をつなぐ。このつながりで新しい可能性をひらき、暮らしをより豊かに。
- ・ 社会教育機関が相互に連携することで相乗効果を高め、生涯を通しての学びの場となり、地域活動の活性化やまちづくりに資する。

- 例えば**
- ・ まなびでつなぐ、あさひかわの未来。
 - ・ わたしの学びが、地域のちから。
 - ・ みんなの「知」でひらく、新しい旭川。 とか

（２）旭川市の社会教育行政に必要だと思う方針（方向性）を出していただきたい

ア 多様な学びと「居場所」の創出

- ・ 個人や団体の主体的学習活動を支援し、誰もが自分らしく過ごせる社会的な居場所の選択肢を広げる。

イ 「誰一人取り残さない」包摂的な学びの推進

- ・ 多様な背景を持つ全ての人に配慮し、学びたいと願う誰もが等しく機会を得られる環境を整える。

ウ 学校・家庭・地域の連携による「学びの循環」の構築

- ・ 学校教育との協働を深め、子どもを育む保護者や地域全体で子どもを見守る、世代を超えた学びのサイクルを創出する。

エ 郷土愛を礎とした「グローカル」な視点の育成

- ・ 日本遺産やジオパーク等の資源を活かし、地球規模の視野で考えながら、地域のために行動できる土壌を育む。

オ 生涯を通じた学びと地域活動のシームレスな支援

- ・ ライフステージに応じて、学びが途切れることなく地域での活動や還元につながる場を提供し続ける。

カ 「個の学び」から「社会参画」へのステップアップ

- ・ 個人の自己研鑽にとどまらず、学びを通じて得た力を地域課題の解決や社会貢献に活かす仕組みを構築。

キ 社会教育施設のネットワーク化と機能強化

- ・ 公民館・図書館・博物館等の各機関が有機的に連携し、相乗効果を生み出す質の高い学びの機会を提供。

ク 大学等との連携による若者の地域参画の促進

- ・ COC「地（知）の拠点」の理念に基づき、学生が在学中から地域活動に深く関わり、次世代の担い手となる機会を創出する。

ケ 行政諸課題の解決に向けた部局横断的な連携の推進

- ・ 防災、人権、福祉、多文化共生など、あらゆる分野の行政機関と連携し、社会教育の手法を用いて複雑化する地域課題を解決する。

※ 何を目指すべきと考えるか？ について各委員から募集

（３）各委員の事例（実践例等）を掲載したい

旭川市社会教育基本計画の最後に社会教育委員の活動紹介や実践例を掲載してはどうか？

- ・ 委員の活動紹介
- ・ 視察や地域行事への参画など、「普段何をしているか？」等々、ダイジェストで。
- ・ 市内で行われた特徴的な講座や、地区住民が主体の先進的な取組の紹介。
- ・ 委員からのメッセージ「旭川市の社会教育に期待すること」を言葉で語る。 など。